

<金標準、ビットコインとの逆相関>



(出所：オアシス)

中国政府は仮想通貨ビットコインのマイニングと取引の規制強化を発表し、人民銀行はビットコインを決済通貨として認めないと発表している。週末には黒田日銀総裁はビットコインについて投機の対象であり、決済通貨としての役割は難しいと述べるなど、金価格に取って代わる逃避先として人気を集めて一時 64895 ドルまで高値を追ったが規制強化を受け 31107 ドルまで下落している。特に金価格はビットコインの反落を機に逆相関を強めながら、逃避資金の受け皿となる動きを強め、金標準先物は 5 月に入り 6200 円から週末には 6728 円まで 500 円以上の上昇を行なっている。またイエレン財務長官はバーチャル公聴会で「今年末までインフレ率は高止まりするとみている」と言及するなど金価格を後押しする発言を行うなど、高値追いの雰囲気を持続している状態である。

しかし 2020 年 8 月の 7000 円を付けたケースと同じであり、短時間で上昇を強めた相場は突発的に大幅な調整を示す確率が高く、今週は調整安に備えるのが良いと予想される。

(2021 年 5 月 30 日記載)

<テクニカル>

MACD を見ても **MACD** と **シグナル** が +90% を超えるなど、強気が維持された状態を示している。しかし **MACD** の伸びを欠いたことから、乖離を示すヒストグラムは縮小を示すなど一時的に買われ過ぎを示している。また **200 日移動平均線** と日足が乖離しており、この点も注意が必要であり、**10 日移動平均線** (6600 円) に向けた下押しの値動きに注意したい場面である。